

実践事例の紹介 - 国語科 -

○森澤亮介 兼子南 島尚平 長谷川浩子 佐藤義竹

1. 小学部「国語科」単元名「なまえなあんだ」

文責：森澤亮介
実践：兼子南

(1) 単元概要	学習形態	授業時数	実施時期
(2) 指導の流れ	3・4年	10時間	10月～11月

次	1	2	3
小单元名	おなまえ おしえて	なまえをいおう きこう	くいずをしよう

活動内容	絵本「おなまえおしえて」の読み聞かせを聞く。写真やイラストと名前をあらわす文字を一致させる。	カテゴリーごと(食べ物、乗り物等)の物の名前を聞いたり、言ったりする。	選んだ写真やイラストを友達に提示し、「なまえなあんだ」と聞く。聞かれた児童は名前を答えて、ひらがなを貼ったり単語カードを選んだりして答える。
------	--	-------------------------------------	--

〈他教科との関連〉



ものに名前がある、ひらがななどの文字であらわすことができるといった学習内容は他の全ての教科に関連すると考えられる。特に「せいかつ」では新しく扱う道具や場所の名前を丁寧に確認し、文字に意味があることを伝えた。

2. 中学部「国語科」単元名「川柳・俳句・詩を書こう！」

文責：島尚平

(1) 単元概要	学習形態	授業時数	実施時期
(2) 指導の流れ	縦割りグループ第3班	10時間	9月～10月

次	1	2	3
小单元名	綺麗な字で書こう!	川柳・俳句を書こう!	詩を書こう!

活動内容	作歌に取り組む前に、改めて綺麗な字を書くための姿勢や筆記具の持ち方、書き方を確認し、綺麗な字を書く練習に取り組んだ。	代表的な作品を題材に五・七・五のリズムで詠むことを学習し、作歌を行なった。川柳の後に、季語についても学習し、俳句を読んだり、作歌したりした。	自分で書きたい詩のテーマを考え、テーマから連想される4つのキーワードを挙げ、キーワード毎に短文を作成し、それらを繋げて作詩を行なった。
------	--	--	---

〈行事との関連〉



授業の中で作歌した「川柳・俳句・短歌」を短冊に清書し、大塚際(文化祭)に掲示した。生徒には事前に掲示する旨を伝えておき、保護者が見ることを告知した上で作歌に取り組んだ。先生や友達だけでなく、保護者や他学部や学年の生徒からもフィードバックをもらうことができ、生徒が達成感を感じる事ができた。

3. 高等部「国語科」単元名「修学旅行に行こう」

文責：長谷川・佐藤義

(1) 単元概要	学習形態	授業時数	実施時期
(2) 指導の流れ	高等部2年生	14時間	9月～12月

次	1	2	3	4	5	6
小单元名	詳しく文で表そう	パンフレットから読み取ろう	外来語と方言	意見を伝え合おう	修学旅行の思い出を作文に書こう	修学旅行新聞を書こう

活動内容	□いどだどゲームや伝言ゲームをして、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を入れた文を作る。	□パンフレットから、修学旅行で行く施設の、営業時間、場所、展示内容等を読み取る。 □読み取ってわかったことを仲間に発表したり、書きまとめてしおりを作る。	□外来語の由来(ポルトガル、オランダ、中国由来等)に分けたり身の回りの外来語を探したりする。 □長崎の方言を中心に各地の方言を調べる。	□戦争と平和の絵本を読み、感じたことを伝え合う。 □話し合いをして、修学旅行の行動計画を立てる。	□作文メモを使用作り、作文を書く。 □まず、始めに、次に、最後に、といった接続詞や、5W1H、気持ちを表す言葉を確認する。	□写真を貼り付けたり、記事や写真の配置を考えたりして、見やすい新聞を作る。 □現地や心に残った場所について、詳しく説明する。
------	---	---	--	---	--	---

〈他教科等との関連〉



高等部2年では11月初旬に実施した修学旅行(長崎方面)を中心的な活動題材にし、国語科・社会科・家庭科・外国語活動・総合的な探求の時間等と相互に関連付けて学習を行った。体験を伴うことで生徒が主体的に学ぶことができ、教材を工夫することで、資料から情報を読み取ったり、考えたことを表現したりしながら、事前学習から事後学習まで、各教科でのねらいを明確に学習を進めることができた。